

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 3 号

令和4年 9月 7日
横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 宮原 美由紀

【提案日時】

8月 1日 (月)

【会 場】

フォーラム南太田

提案 三浦 智 先生 (高舟台小)

司会 藤巻 香里 先生 (獅子ヶ谷小)

記録 杉内 翔太 先生 (大豆戸小)

1 提案内容 単元名

単元名「 未来を支える食料生産 ～山形県酒田市の米づくりから考える日本の農業～」

2 提案者より

- ・庄内平野の半分の面積で米づくりを行っている酒田市を取り上げた。
雪解け水が豊富な川、周りが山、土の栄養もよい、寒暖差もあり気候もよい地域
→様々な自然条件が合わさって、1.0aあたりの収穫量が国内でも最上位
- ・Tさんとは、パンフレットから出会い、取材を行った。
2.3haの広い土地で5種類の米をつくり、はがきやインターネットでの販売も行っている。

視点① 主体的な学びを実現するための予想と見通しを生かした単元づくり

○成果

- ・人との出会いや体験との比較の有効性【具体的な事例（米づくり）との出会い】
→機械化の話題になった時に、「自分たちの畑なら…」と考える姿が見られた。
→農業のプロであるTさんの生の声を聞くことで、材との心理的な距離が縮まった。
- ・子どもたちのみとりを生かした資料の精選【効果的な手立て】
→本時において、消費者の視点が少ないことをみとって、資料（消費者の声とそれに対応するTさんの感想）を提示した。

○課題

- ・資料提示の後、子どもたちの視点の変化（消費者の視点）や考えの深まり△
→提示するだけでなく、適切な問いかけがあるとよかった。
- ・Tさんの事例を学習していく中で、「日本の農業生産」という視点が少なかった。

視点② 社会的事象の意味等に迫るために、協働的な学びを大切にした授業づくり

○成果

- ・Tさんへの質問を思考ツール（Xチャート）で分類整理【協働的な学びと学習計画】
→子どもたちにとって共通の学習問題として認識することができた。

・座席表を活用した資料提示のポイントや精選、問い返しの準備【児童のみとり】
→意図的な問い返しの場面を設定しておくことで、直接販売のよさに迫ったり、子どもの発言にリンクした資料を用意しておくことで必要感を高めたりすることができた。

○課題

- ・子どもの発言をきっかけに資料提示したが、全員が資料の必要性を感じてはいなかった。
→発言を問い返して、全体の共通問題と捉えるまで待つ必要があったのではないかと。
- ・子どもの考えに寄り添う中で、「2つの販売方法」のことが学習問題として成立した。
(想定では、大切に育てたお米をJAで販売することに着目)
→両方(JAとカントリーエレベーター)を捉えながら考えるのが難しかった。

2 協議会

- ・子どもたちがTさんの思いに寄り添っている姿が見られてよかった。ただ、2つの販売方法が二項対立のようになってしまった。両方を同時に見ると深まりが見えにくいので、1つを深く見ていきながら、もう一方のことも考えられるとよかったのではないかと。ベン図を用いて共通点も考えられると、直接販売の見えにくい部分も見えるのではないかと。
- ・人の営みから米づくりを見ていくすてきな実践だった。「せっかく作って混ぜたくないのに、三分一はJAに入れる」という事実から、日本の農業の課題に目を向けるのもよかったのではないかと。
- ・具体的な事例から日本全体へ視点を戻すのは、いつも難しいと感じている。今回の場合であれば、JA側の資料(小学校に苗を渡す事業など)があると、日本の農業の全体像が見えるのではないかと。
- ・子どもが資料を求めている姿からも育っていることが伺える。学習問題については、どういう人が直接買っているのかを考えるだけでも、販売方法の共通点や違いがはっきりしていくのではないかと。

<講師の先生より> 大曽根小学校 宮本 雅司 校長先生

ネット上に上がっている「嫁日記」からもTさんたちが米づくりについて発信していることがわかり、そんなTさんの営みから学んでいることは、主題ともリンクしていてよかった。

自給率などの「見えないもの」も大切だが、導入では庄内の苗などの「見えるもの」から見ていくことも大切。子どもが本気になる、こだわりをもって考えるためには、一つの立場の方が本気になる場合が多い。教師の中でねらいをもっていても、子どもたちに投げかけて学習問題を作る姿勢は大切にしてほしい。ただ本時に関しては、JAに混ぜるのは嫌というところから、JA一本で考えるのもよかったのではないかと。

見えにくいものの価値(米づくりの将来や自分のお米を買ってほしいという思い、JAとの協力など)を考えていく5年生の農業単元において、参考になる実践だった。

川和東小学校 高畠 聡 校長先生

お米の学習の構想やアイデアが生まれる提案性の高い実践だった。視点①については特に成果があった。視点②については難しい部分もあった。資料の内容やタイミングで、子どもの思考は変わる。今回の実践のように、お米の作り方だけでなく、販売方法や経営にも目を向けることは指導要領にも書かれている通り。先生自身に願いがあからこそ、そこにもたどり着いていた。ただ、事実を見せること(販売方法による価格のちがひ)や昔と比較すること(対面のみ?JAのみ?変容したのか?)で見えてくるものもある。

本時の学習問題で言うと、単元を通してTさんのチャレンジを追いかけてきた中で、最終的には何を狙っているのかを、事実をもとに考えていくのが大切。「~する方がいいのに、なぜ〇〇するの?」となるように、資料や事実を見せていく。平成7年の全小社(二項対立)の型だけを真似るようなことにならないようにしたい。教師が本質を学んで、単元づくりに生かしていくことで、見えてくるものもあるのではないかと。

文責 三浦 智 (高舟台小学校)